

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自覚して共有しています。	職員ならび、ご利用者のご家族が目にする玄関先に理念が掲示されている。「安心・安住・安楽」という理念の元、ご利用者のペースに合わせ、ゆったりと業務を行っている。	新しく入職される職員に向けての理念の共有、実践を確実に行っていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り交流に努めています。	近隣の理美容室への外出や訪問での理美容など、地域社会資源の利用を通じて、関係性を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に少しでも理解していただけるよう解放できるように心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では資質の取り組みや活動等を詳しく説明しています。	行政や地域包括支援センターの職員なども参加され、定期的開催されている。意見をいただくほか、事業所として、地域に貢献できる事案を発信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター及び木更津市行政とはまめな連絡や介護相談員の訪問等で協力しています。	事業所内のケアサービスの取り組みの他、自家発電の設置に伴い、災害時においては地域住民への支援に向けた取り組みも協議している。	発電機の供給の他、自動販売機の災害時開放など、地域に向けた更なる支援体制に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないこと禁止事項について遵守しています。	運営母体が医療機関である為、日常的に身体拘束に関する教育が行われている。また、施設内の研修等も定期的実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、虐待の内容施設内での職員(看護、介護、医師)で見落とし等がないように協力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、各種研修や貢献医制度を活用し各個人に不利益にならないよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ丁寧に説明し、相互理解が出来るよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して、家族やご入居者の意見や要望については出来るだけ可能な形で協力できるように心がけています。	状況に応じた職員が、ご家族、ご本人より聞き取りをした内容を職員間で口頭の話ではなく、タイムリーに、かつ、記録として残るよう、メールでの申し送りが実践されている。また、申し送りの効率化に向け、文字入力のボイス化を検討している。	現時点ではメールを活用されているが、申し送りのボイス化が進むことで、場所、時間を問わず、タイムリーに情報共有が可能になる事に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案については、すぐに行うこと時間のかかることを整理して対応しています。	職員の個々の働き方に対する取り組みがみられ、職員一人ひとりの成長に合わせて意見を発信できる機会の設けている。また、職員側からも相談しやすい風通しのよい関係性がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力勤務状況に合わせて給与や賞与、手当等も含めやりがいをもって仕事ができるよう環境整備を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力向上をはるため資格の取得に関して支援制度があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	災害時の協力体制等について近隣事業者と虚偽しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ初期の段階で本人の要望や性格も含め、困っていることが無いか聞き取りをし、安心できる環境を整えられるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困りごとについては、事前に家族やケアマネージャーから聞き取り内容を精査し関係づくりに取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階でのサービスについては事前に家族やケアマネージャーと協議して見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごすために共有できること関係づくり努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方々とは定期的なカンファレンス以外にも面会時や、電話で困りごとや不安なことについて相談を受け付けています。	長年利用していた理美容室へ外出の支援を行っている。面会予定を把握・共有することで、ご利用者の交友関係の把握、継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性や性格に合わせて相互の関わり合いや支えあいについて孤立しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後についてはご家族の要望や希望相談をいつでも受けられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケア計画に個々の希望や意向を出来るだけ取り入れるように心がけています。	職員が日常的な関わりの中で、ご利用者の思いや意向を受け止めている。意思表示が難しい方に対してはご家族から意向を聞き取っている。また、ご家族の面会時には計画作成担当者が直接ご家族から意見を聞き入れる努力をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の生活歴を家族や本人から伺いサービスを提供する際に生活感巨頭に配慮するよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況や体力、能力に合わ現状の把握にに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアの取り組みとして家族や本人との話し合いを行い介護計画に取り入れるよう職員間で共有して取り組んでいます。	関係者により作成された介護計画書について、電話のみならず、対面でご家族とお話をする機会が増えた為、計画作成担当者が直接ご家族からの意見の聞き取りやご本人の様子をお伝えし、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア計画に基づき、記録や情報共有を毎日の申し送りや連絡ノート等で今日有出来るよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に、重度化対応(看取りに)重点を置く取り組みを行っています。医師、看護師、介護職員、家族と一緒に連携して取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や、地域の行事参加について積極的に取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師がオーナーなので家族や職員を含め情報共有がなされています。また適切な医療についてはすぐに対応しています。	往診による手厚い医療支援の他、通院時にも医療連携が図れており、スムーズなサポートが受けられる。いざという時には、入院・手術等の医療連携も構築されており、ご本人、ご家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、介護職員との日々の連携については普段から申し送りや共同での作業や情報共有、適切な指導がなされています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に医療機関との連絡調整については、主治医、看護時、介護職員とも関係が構築できています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、終末ケアについては契約書、重要事項説明書とは別に看取りに関する取り扱いを十分に説明して理解していただけるよう取り組んでいます。	入居時の説明の他、専門職により、都度、報告・説明がされている。医師との連絡体制も整っており、迅速な対応が可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時については、日々の業務の中で看護職員、医師を中心に適切に指導を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の協力体制等について近隣事業者と共有しています。	地域包括支援センターや薬局、入院可能な医療機関等の協力体制が構築されている。また、ご入居者のみならず、職員分の備蓄も確保している。また、有事の際を想定した連絡網も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人のプライバシー保護については、出来るだけの配慮を日々行っています。	職員が関わる際には目線の高さを合わせ、声掛けも丁寧であり、職員一人ひとりに接遇マナーが行き届いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定について、可能な限り本人の意思で出来るように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は原則的に行っていますが本院のペースに合わせて希望に添えるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の身だしなみや、整容について毎日取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については職員が日々手作りで用意しています。その中で利用者がお手伝いできることを行っています。	ご入居者に食事の準備など役割を持ち、行える取り組みをされている。また、食事摂取が困難な方に対しては本人のペースに合わせた食事介助をし、一人ひとりが食事を楽しめるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の栄養バランスや水分摂取について状態に合わせて医師の指示のもと適切に行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き等を職員が見守りや援助をしながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自立して排泄できるようにしていますが、それぞれの方の特性に応じポータブルなども活用しています。	オムツ内での排泄ではなく、ポータブルトイレの活用など、トイレでの排泄を促す努力がされている。また、排泄後の匂い等もなく、衛生面でも配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防については日々の食事に気を使いながら医師の指導のに従いg恵財投の服薬も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については出来るだけリラックスできるように個別介助で入浴できるように心がけています。	ご利用者の日課や身体状況を考慮し、入浴時間を調整する取り組みがされている。入浴が難しい場合には身体に負担がかからないよう、清拭を定期的に行い、気分転換ができるよう努力されている。	入浴機器の導入により、入浴が難しい方へ負担の少ない方法での入浴の検討に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室での睡眠を安心して取ってもらうためにTVの音量や離床センサー等を設置して安全にこころg開けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬管理に対して、誤薬等がないようにダブルチェックを行い服薬していただくようにしています。ゼリーやオブラートを使用している服薬も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の趣味や嗜好を尊重して自分で出来ることを見つけてクロスワードや水彩画、生け花等生きがいをもって行えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理美容や買い物外出に対しては家族の協力のもと体調に合わせて支援を行っています。	重度の方が多いため、日常的な外出が難しいが、ご利用者やご家族の希望に沿って、外出しやすい環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や、出張販売に来た際にお小遣いから使って貰いお金を持つことについて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、はがきなどに支援については相手側の都合に合わせて支援を行い、手紙など書面についてはお手伝いさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾や、花を生けるなど心がけBGMも多岐にわたり流しています。	事業所内はきれいに清掃されており、季節を感じる飾りや、庭木や花の手入れがされ、ゆったりと過ごせる空間づくりがされている。リビングでくつろげるよう、ソファなども数多く用意されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を設けています。自分のお気に入りの座布団やクッションを持ってきてくつろいでいただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の調度品や家具について、今まで使っていたものお気に入りのもの、写真や絵画等飾っていただけるようにしています。	居室ではご利用者が使い慣れた物を置き、安心できる環境づくりをしている。また、終末期にご家族が居室に泊り過ごせるよう、居室広くとっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日課や行事や通院等カレンダーやメモ帳に記載してわかるようにしています。特に時計やなどは電池切れのないように心がけています。離床の際のコールやセンサーを設け安全に配慮しています。		